

大学・高専機能強化支援事業
令和7年度現地調査報告書

大学・高専機能強化支援事業選定委員会

調査日	令和7年 10月 27日(月)	区分	支援2
選定年度	令和5年度	大学名	北里大学
設置等組織名	未来工学部データサイエンス学科 未来工学研究科生命データサイエンス専攻	設置・定員増員年度	<学士>未来工学部データサイエンス学科(R6増員) <修士>未来工学研究科生命データサイエンス専攻(R6新設・R9増員) <博士>未来工学研究科生命データサイエンス専攻(R8新設)
事業計画名	「生命科学×データサイエンス」教育・研究を加速させる「知のネットワーク形成」プログラム		

<p>1. 進捗状況の概要</p> <p>(1) 事業計画の具体的な取組の進捗状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業計画が変更された計画に沿って進捗している状況が確認できた。 <p>(2) 好事例や把握された事業の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学士課程の増員及び修士課程の設置が計画通りに実施されている。令和8年度における博士課程の設置、及び令和9年度における修士課程の増員計画についても、教育・研究環境の整備、教員の確保、入試制度の工夫及び教育内容の特色の確立等により、予定通りに実施される見込みである。 ・既設の他学部等において蓄積された医療やライフサイエンス分野における様々な貴重なデータを活用し、データサイエンスにおける特色ある教育プログラムを展開している。 ・先進的なIT環境・実験環境の整備、サーバーのスケールアップ、自動化実験装置の導入等、ハードウェアの強化により、研究の更なる進化が期待される。
<p>2. 指摘事項(留意事項・参考意見)</p> <p>(参考意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンスを医療へ展開していくには医療側とパートナーシップを構築する必要がある。データサイエンスが果たせる役割を学内で共有するとともに、異分野間の連携によるメリットを活かしていくことが求められる。教職員間の協働に加え、学生に分野に跨る学習機会の提供も含め、連携と融合を強化し、実装・実用をさらに進めていくことを期待したい。 ・サーバー整備におけるコストバランスの取り方は、多くの大学でも模索途中の難題であるが、本事業の計画に対応しつつ、最適なバランスを取ることができるよう、引き続き検討していただきたい。 ・就職活動を開始した学士課程1期生の活動状況及び今後の就職先を注視していく必要がある。また、今後蓄積していく就職実績をもとに、在学生や高校生の進路選択の参考になる情報を提供していくことが望まれる。 ・学士課程では1年次は基礎教育・教養教育に力を注ぎ、2年次以降はプログラミングも含めて実践・実用を重視したカリキュラムが提供されている。データサイエンスの社会における応用の実態と、学生の学習動機の両面を考慮し、バランスよく教育内容と科目を配置できるよう、引き続き検討していただきたい。 ・女子学生の比率が相対的に高い水準にあるが、例えば女子学生のロールモデルやキャリアのモデルケースを確立し、それを学内及び高校で認知してもらうための活動等、女子進学率の更なる向上に向けた取り組みを期待したい。